



秋のオススメ本紹介

YA担当より

“読書の秋”がやってきましたね！

YAコーナーでは、ここに紹介した本の他にも、たくさんのおすすめ本を取り揃えています。

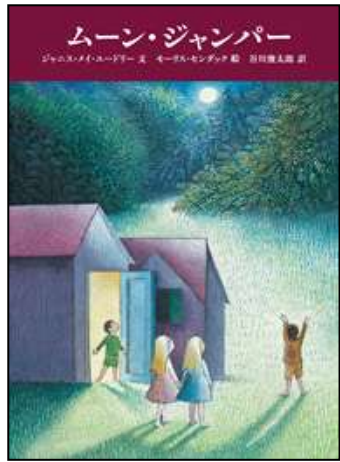
本も入れ替えましたので、ぜひコーナーに立ち寄ってみてくださいね。

あなたにぴったりの本が、きっと見つかりますよ♪

①

「ムーン・ジャンパー」

ジャニス・メイ・ユードリー／文
モーリス・センダック／絵
谷川 俊太郎／訳
偕成社
YA書架 Eセ



そらにつきがのぼった！よるのにわにでて、みんなはだしでおどります。

誰しも小さな頃の懐かしい記憶というものがありますが、この絵本の中の子どもたちのように、月へ向かって心も体も高揚するような記憶もどこかに眠っているのではないのでしょうか？

ひんやりとした夜の空気感、しんとした静寂、その中に生まれる夜への憧れを、詩的な文章がより引き立てる、秋の夜長に読みたい幻想的な一冊です。

②

「赤の他人だったら、 どんなによかったか。」

吉野万里子／著
講談社
YA書架 913ヨ



ある日、隣町で通り魔事件が起こる。中学2年の風雅がいるクラスは、その話題でもちきりに。犯人に自分と同じ年の娘がいることを知った風雅は、その子を見に行こうと盛り上がる。しかし、その晩、母親から犯人が自分の遠い親戚にあたることを知り、ショックを受ける。クラスメイトに知られたくない風雅。だが、信じられないことに、犯人の娘・聡子が同じクラスに転校してきたのだった。

風雅と聡子の視点を通して、「他人」「血のつながり」とは何かを考えさせられる1冊です。

③

「夕あかりの国」

アストリッド・リンドグレン／文
マリット・テルンクヴィスト／絵
石井 登志子／訳
徳間書店
YA書架 Eテ



「もう歩けるようにはならないかもしれない」両親がそう話すのを聞いた日、ボクは初めて「夕あかりの国」を訪れた。やわらかな夕明かりの街を、自由に暮らす人や動物たち。どんな不思議なことも「夕あかりの国では、なんでもないんだよ」。

現実是不変で、だけど、心にあたたかな灯がともるような感じます。『長くつ下のピッピ』の作者が贈る、静かで美しい物語。

④

「似ている英語」

おかべ たかし／文
やまで たかし／写真
東京書籍
YA書架 834オ



「shake(シェイク)」と「swing(スウィング)」。この違い、わかりますか？日本語ではどちらも「振る」ということばで表現されますが、英語ではまったく別のことばになります。

この本は、目で見ることばシリーズの第5作目になります。似ている二つの言葉を写真でわかりやすく比較してあるので、一目でその違いを理解することができる、まるで写真集のような本です。

